第１回富山市有機農業推進協議会次第

日時：令和６年５月９日（木）１０時から
場所：富山市営農サポートセンター会議室

１　開　　会

２　委員紹介（事務局紹介）

３　報告事項
（１）令和５年度の取組み内容について……資料１

（２）オーガニックビレッジ宣言と富山市有機農業実施計画について ……資料２

４　議　　事
（１）令和６年度の取組み（年間スケジュール）について ……資料３

５　意見交換
（１）令和６年度の取組について

（２）富山市 CSA 型サポート組織検討のためのワーキンググループの設置について
資料４

６　そ の 他

資料1

令和5年度の取り組み状況

年度	月	日	内容	備考
令和５年	4	10	みどりの食料システム戦略推進事業補助金割当内示	10,000千円
		10	補助金交付申請及び交付決定前着手届提出	
		27	富山市有機農業実施計画策定支援業務委託契約	7,700千円
	5	8	○第１回富山市有機農業推進協議会	
		9	①実証ほ場設置	3ヶ所
		18	みどりの食料システム戦略推進事業補助金交付決定	10,000千円
	6	15	①有機米栽培機械作業実演会	市内農業者
	7	19	①有機えごま栽培講習会	市内農業者
		25	富山市有機農業実施計画策定支援業務委託変更契約	9,724千円
	8	2	①有機農業の意義及び事例に関する講演会	市内農業者
		4	①有機栽培事例研修及び農業者ワークショップ	市内農業者
		17	○第２回富山市有機農業推進協議会	
	10	16～	②えごま油飲用モニター及びアンケート調査	市スポ協協力
	11	5	②ワンデージャックフェスタでの有機農産物出品及びアンケート	
		6～7	○先進地視察（兵庫県豊岡市）	
		14	○第３回富山市有機農業推進協議会	
		23	②里山交流フェスタでの有機農産物出品及びアンケート	
	12	4～8	②有機米及び富山えごまの学校給食	市内公立小中学校
令和６年	1	18～	③有機農産物加工食品開発に関する調査	市内40社
		24	①有機JAS認証取得勉強会	
	2	13	○第4回富山市有機農業推進協議会	計画・宣言（案）

①:生産拡大の取組　②:消費拡大の取組　③:加工品開発の取組

有機米栽培作業実演会（6/15）

有機えごま栽培講習会（7/19）

有機JAS認証取得勉強会（1/24）

有機米生育状況
アイガモロボット使用
（土遊野）10/2現在10/3収穫

有機米生育状況
みのる式除草機使用
（小原営農センター）10/6収穫

えごま生育状況
無農薬・無化学肥料栽培
（山崎客土会）10/16収穫

令和5年度の主な取り組み内容

えごま油飲用モニターアンケート調査結果

■実施概要

調査対象：中高年健康づくりコースを中心とした19プログラムの参加者とその講師
調査方法：1日1回約2g（ティースプーン1杯）を飲んでいただき、約1か月後にアンケートに記入
調査期間：令和5年10月16 日（月）～11月24日（水）えごま油配布
配布数：えごま油430本
回答数：304票

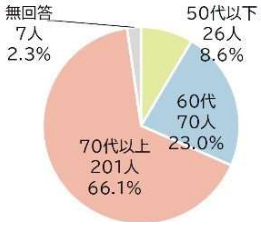
■アンケートの主な集計結果

(1)性別
「男性」が7.9%、「女性」が88.8%となっている。

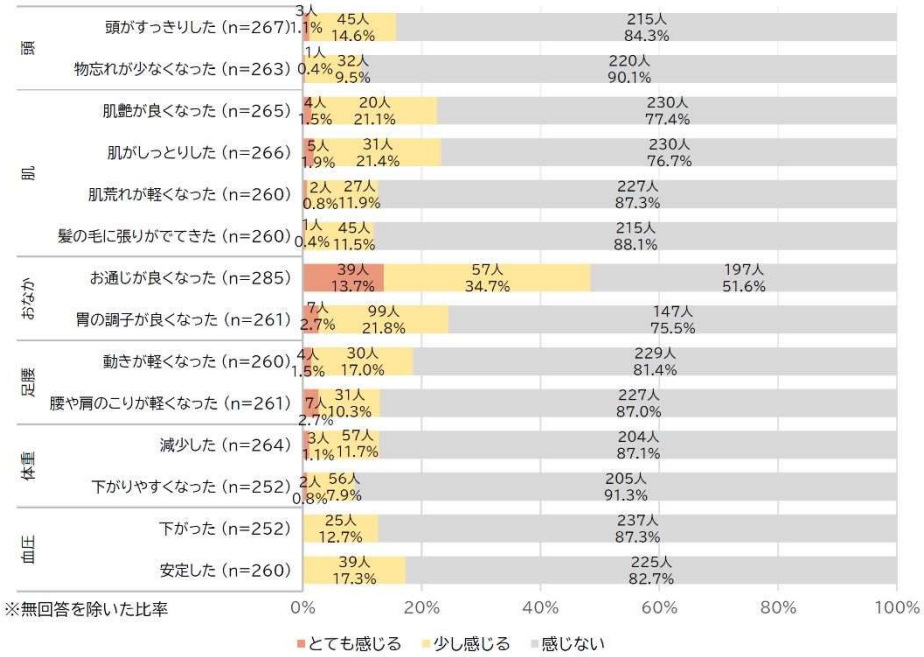
	回答数	割合
男性	24人	7.9%
女性	270人	88.8%
その他	0人	0.0%
無回答	10人	3.3%
合計	304人	100%

(2)年齢
「70代以上」が最も多く6割以上となっている。

	回答数	割合
50代以下	26人	8.6%
60代	70人	23.0%
70代以上	201人	66.1%
無回答	7人	2.3%
合計	304人	100%



○1か月試して感じた体の変化

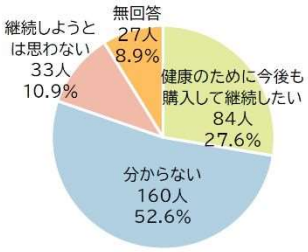


お通じや胃の調子など「おなか」に関する改善効果を感じた方が多い

次いで、肌のしっとり感や肌艶など「肌」に関する改善効果を感じた方が多い

○今後も継続したいか

	回答数	割合
健康のために今後も購入して継続したい	84人	27.6%
分からない	160人	52.6%
継続しようとは思わない	33人	10.9%
無回答	27人	8.9%
合計	304人	100%



今後も購入して継続したいとした方が約3割

令和5年度の主な取り組み内容

有機農産物に関する消費者ニーズ調査結果

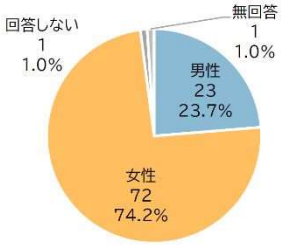
■実施概要

調査方法：イベント出店における対面調査
調査日：令和5年11月5日（日）ワンデージャックフェスタ
　　令和5年11月23日（木）第2回「とやま里山フェスタin八尾」
　　令和5年11月23日（木）2023食でつながる輪
回答数：97票
　　（ワンデージャックフェスタ42票、とやま里山フェスタ15票、食でつながる輪40票）

■アンケートの主な集計結果

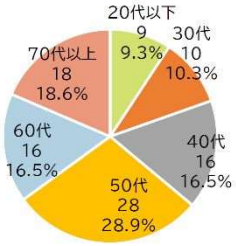
（1） 性別
「男性」が23.7%、「女性」が74.2%となっている。

	回答数	割合
男性	23	23.7%
女性	72	74.2%
回答しない	1	1.0%
無回答	1	1.0%
合計	97	100%

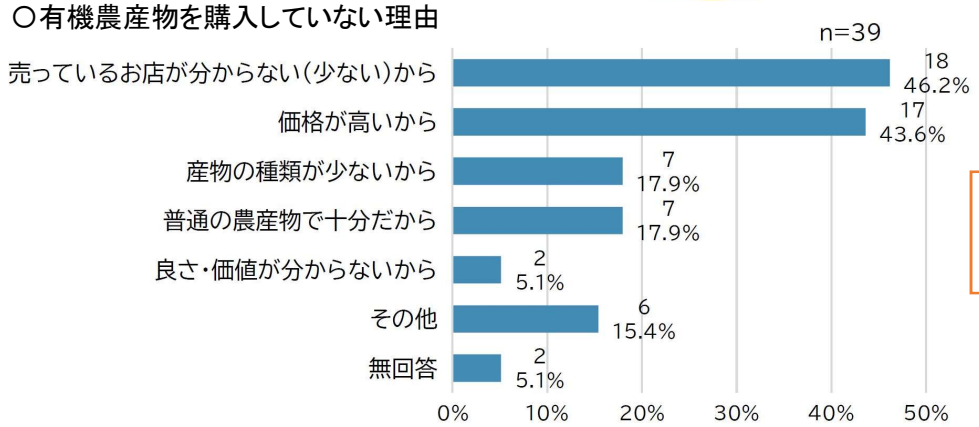


（2） 年齢
「50代」が28.9%「70代以上」が18.6%となっている。

	回答数	割合
20代以下	9	9.3%
30代	10	10.3%
40代	16	16.5%
50代	28	28.9%
60代	16	16.5%
70代以上	18	18.6%
無回答	0	0.0%
合計	97	100%

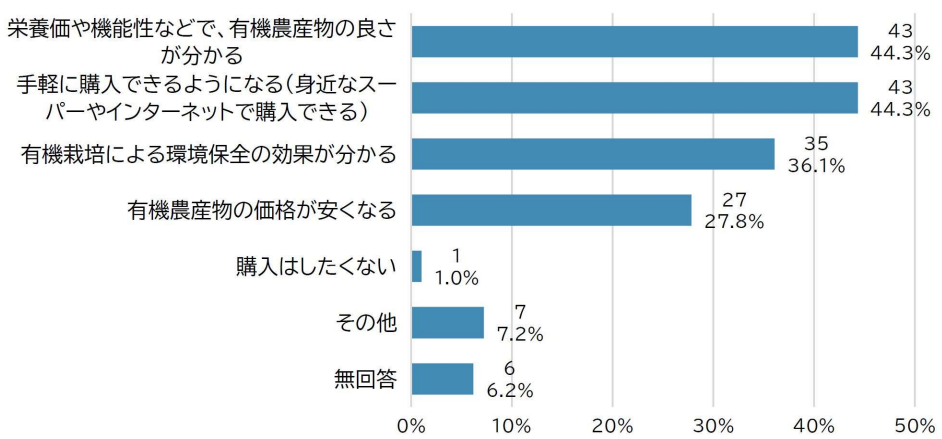


○有機農産物を購入していない理由



売っている店舗がわからないが最も多い
次いで価格が高い

○有機農産物を購入したくなる理由



有機農産物の良さがわかる
手軽に購入できる
環境保全効果がわかるが多い

令和5年度の主な取り組み状況

有機米及び富山えごまの学校給食

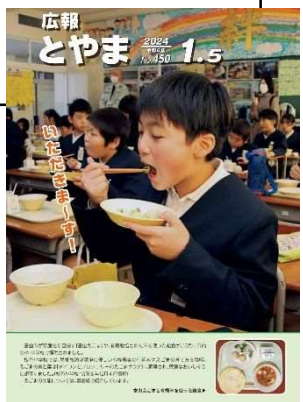
■実施概要

有機米と富山えごまの学校給食
- ・有機コシヒカリ　2,650kg （10kg/袋） (有)土遊野
- ・富山えごま　10.9kg （100g/袋） あおば農協
- ・実施日時：12月4日（月）～12月8日（金）
- ・実施場所：市内の富山市立小学校64校、中学校25校、幼稚園3園　各校1回　約32,000食分

■実施の様子

・令和5年12月4日　桜谷小学校（5年1組）

学校給食有機の日　献立
有機コシヒカリのごはん 大根とブロッコリーのえごまサラダ 豆腐のきのこあんかけ煮 小籠包 牛乳



■感想など

（生徒等）美味しかった、甘く感じた
　　差がわからなかった、固く感じた　　など
（市広報）富山の美味しいお米がもっと普及してほしい
　　えごまを家庭でも試してみたい、料理してみたい　など

■今後の課題など

（生産面）有機米は販路が決まっており、学校給食用として別に生産量を増やす必要がある
　　生産量が少ないため天候等による作況に左右されやすく、安定供給に不安がある
（価格面）有機米の価格は通常の倍近いため、継続には保護者の理解や財源確保が必要である
（実施面）有機米は系統出荷でないため、市担当者が農家へ集荷し、調理校等へ搬入する必要がある
　　炊飯事業者では、通常の学校給食米と有機米を同じ日に炊くため、作業が煩雑になる
　　炊飯業者、学校それぞれで炊飯されるため、お米の炊き上がりに差がある
　　子供たちへの有機栽培に対する情報が、学校ごとや同じ学校内でも差がある
　　えごまの実は種実類に該当し、アレルギー対応が煩雑になり学校現場で混乱した　　など

令和5年度の主な取り組み状況

有機農産物加工品開発に関するアンケート調査結果

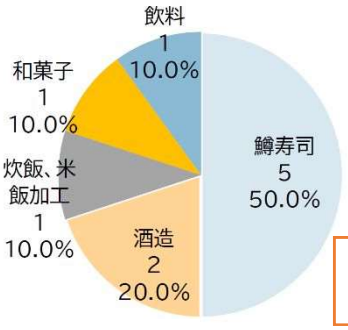
■ 実施概要

・調査方法：WEBまたはFAXによる回答
・調査期間：令和6年1月18日～1月31日
・回答数：10社/40社　　回収率25%

■アンケートの主な集計結果

○回答のあった業種

	回答数	割合
鱒寿司	5	50.0%
酒造	2	20.0%
炊飯、米飯加工	1	10.0%
和菓子	1	10.0%
飲料	1	10.0%
合計	10	100%



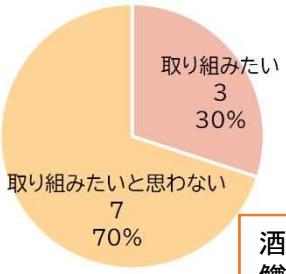
鱒寿司からの回答を多くいただいた

○有機米や有機えごまを原材料とした加工品開発に取り組みたいか

	回答数	割合
取り組みたい	3	30.0%
取り組みたいと思わない	7	70.0%
合計	10	100%

■「取り組みたい」と回答した事業者

区分	事業者
[redacted]	

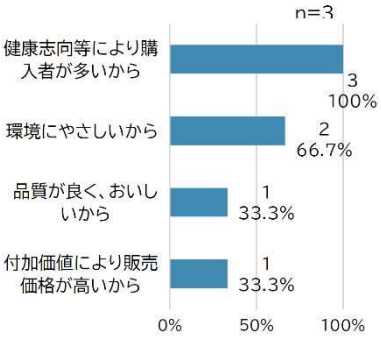


酒造業2件
鱒寿司1件
取組みたい意向あり

○加工品開発に取り組みたい理由

n=3

	回答数	割合
健康志向等により購入者が多いから	3	100%
環境にやさしいから	2	66.7%
品質が良く、おいしいから	1	33.3%
付加価値により販売価格が高いから	1	33.3%
その他	0	0.0%



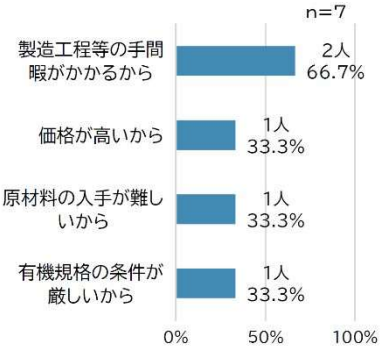
原材料が有機食材だと購入者が多いとの回答が最多

○加工品開発に取り組めない理由

n=7

	回答数	割合
製造工程等の手間暇がかかるから	2人	66.7%
価格が高いから	1人	33.3%
原材料の入手が難しいから	1人	33.3%
有機規格の条件が厳しいから	1人	33.3%
その他	3人	100%

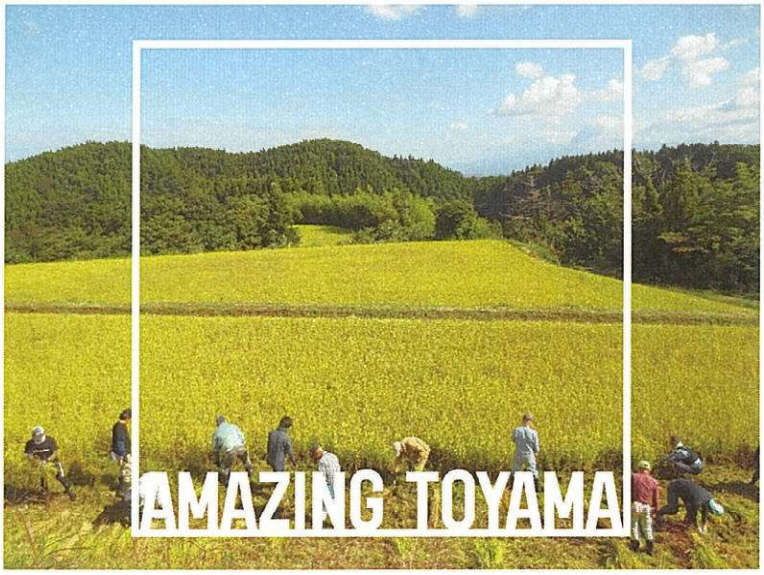
【その他】
現在の業務では使用しないため
飲料には使用しにくいため
デメリットがあるため



製造工程での手間がかかるとの回答が最多

資料２

富山市



富山市では、富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰までの雄大な自然が育む豊富な水資源を活かし、お米を中心とした多様な農産物が生産されています。

また本市は、全国に先駆けてSDGs未来都市に選定され、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを深化させながら「持続可能な付加価値創造都市」を目指しております。

生物多様性を重視し地域資源の循環等を図る有機農業は、現在本市の中山間地域等で取り組まれておりますが、この農業が今後、市内各地域に広がり、次代へ継承されることは、本市が目指す持続可能なまちづくりに繋がるものです。

私は、地域と一体となり有機農業に取組みやすい環境を整えることで、生産性と持続性が両立した自然と調和する農業の実現を目指すことを誓い、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和６年３月２９日　富山市長　藤井 裕久

富山市有機農業実施計画

1. 市区町村
富山市
2. 計画対象期間
令和　6年度　～　令和　10年度
3. 対象市区町村における有機農業の現状と5年後に目指す目標

ア　有機農業の現状

富山市では、これまで「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を目指すなか、SDGsの理念と軌を一にする「環境未来都市」及び「環境モデル都市」として先行的に取り組み、2018年には「SDGs未来都市」に選定され、経済、社会、環境の3側面をつなぐ総合的なプロジェクトにより「持続可能な付加価値創造都市」を目指している。

その本市の農林水産業は、富山湾から標高 3,000m級の北アルプス立山連峰までの雄大な自然が育む豊かな水資源を活かし、水稲を中心とした多様な農産物が生産されているが、近年、農業従事者の高齢化や少子化の進行による後継者不足、耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷による所得の伸び悩みに加え、中山間地域では有害鳥獣による被害が増加するなど様々な課題に直面している。

本市では、99.3ha（令和4年度末）で有機農業が実践されているが、その中で、本市を流れる神通川左岸の中山間地域である小羽地域とその対岸に位置する岩木地域では、2つの法人が有機JAS認証を取得しながら、有機農業に積極的に取り組まれ、生物多様性など環境の保全や雇用の創出など、本市における持続性のある農業のモデルとなっている。

また、市内のあおば農協管内では、有害鳥獣被害の少なさとその効能から中山間地域等で有機えごまの特産化を目指している。

しなしながら、市民からは、販売している店舗や有機栽培による環境保全の効果に対する情報が不足しているという声が聞かれ、その対応が課題となっている。

イ　5年後に目指す目標

本市の持続可能な農業のモデル的な取組みを市内外へ発信することにより、中山間地域等において、水稲を中心に園芸品目を含めた国際的な取組水準の有機農業等の普及拡大と、それ以外の地域における減農薬・減化学肥料栽培等の展開により、農業の側面から「持続可能な付加価値創造都市」の実現に寄与することを目指す（図1）。

また、国際的な取組水準の有機農業を推進する中で、特に米やえごまについては、海外輸出やより付加価値を向上させる手段として、有機JAS認証の取得を進める。

有機農業取組面積拡大　R4:99.3ha　→R10:　130ha（+30.7ha）

有機JAS取組面積拡大　R4:　74.6ha　→R10:　90ha（+15.4ha）
米　74.6ha　→　85ha（+10.4ha）
えごま　0ha　→　5ha（+5ha）

有機JAS取組み農業者の増加　R4:　5人→R10:　9人（+4人）
米　5人→　7人（+2人）
えごま　0人→　2人（+2人）

有機えごま販売数量（実換算）　R4:　0kg→R10:1,500kg

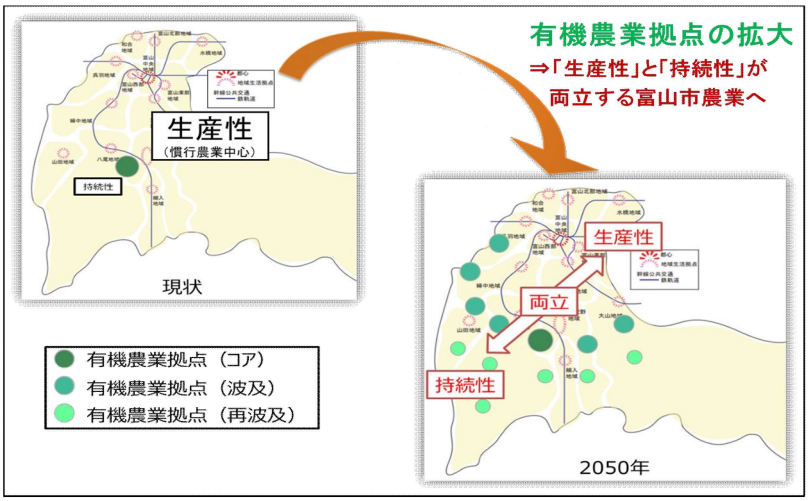


図1：推進イメージ

4. 取組内容

ア　有機農業の生産段階の推進の取組

①有機米・有機えごま栽培技術研修会等の開催

農業者が自由に見学可能なモデル経営体の有機農業展示ほの設置と、ほ場を管理する経営体を講師とする有機栽培技術研修会を開催し、慣行の農業経営体が新規に有機農業に取り組む際の不安軽減と取組の拡大を図る。

②有機農業への転換時の支援

新たに有機農業に取り組む農業者に対し、有機農業への転換に必要なほ場の土づくり等の経費に対し支援を行う。

③有機JAS認証取得勉強会の開催と取得経費への支援

有機JAS認定の意義や取得までの流れについて勉強会を開催し、中山間地域等で有機えごまの特産化を目指すあおば農協管内の農業者を中心に有機JAS認定取得に向けた機運の醸成を図るとともに、有機JAS認証の新規取得申請経費等について支援を行う。

④有機農業用機械等の導入支援

市内で有機農業を拡大するため、除草作業などの負担を軽減するために必要な、除草ロボ、アイガモロボ、乗用除草機等の導入に対し支援を行う。

⑤富山市CSA型サポート組織の検討

消費者に対し、有機農産物取扱店舗や有機栽培による環境保全効果等の情報発信を強化するため、農村部の地域づくりを行いながら人と大地の繋がりを大切に、豊かな自然を次の世代に引き継ぐことを理念とする地域一体型の有機農業推進サポート組織「(仮称)富山市有機の郷づくり応援隊」の設立について、有機農業の実践農家や慣行農業等を行う営農組合、農協及び消費者等を構成員とするワーキンググループを設置し、慣行農業や特別栽培から有機農業への転換を既存営農組織等に促しつつ、消費者と地域の交流を促進することにより、消費者参加のCSA(community supported agriculture)の取組みを試行し、CSA型サポート組織の検討を進めるとともに、有機・自然栽培等の多様な担い手の確保と掘り起こしを図る。

イ　有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

①既存イベントへの有機農産物の出品

本市が行っているイベントにおいて市内産の有機農産物を出品し、市民に対し、本市の有機農産物取扱店の周知や有機農業の環境保全効果などの理解度の向上を図る。

②有機米等の学校給食利用

関係機関と連携し、有機米等の流通体制の構築を図るとともに、有機米等を学校給食において利用することで、子供たちやその保護者などに対し、資源の循環と命の繋がりにより持続可能なまちを育む有機農業の理解の促進を図る。

③「有機富山えごま」飲用市民モニター

健康に対する意識の高い市民等に対し有機栽培のえごま種子を用いた市内産えごま油を配布・飲用してもらい、有用性の体感により、リピーターを獲得し、需要の拡大を図る。

④加工品開発と海外輸出の検討

本市の特徴である美味しい水と有機酒米を用いた日本酒や有機米を用いたマスずし等について、市内加工事業者等と連携・開発し、新たな特産品の創出を図るとともに、海外への輸出について検討する。

5. 取組の推進体制
ア　実施体制図 ※実施に必要な組織、委託先等を記載すること 別紙のとおり イ　関係者の役割 ・富山市 有機農業実施計画の実施に必要な事務及び農業者への支援 ・富山県 事業遂行への協力・アドバイス ・富山市有機農業推進協議会 有機農業実施計画の実現に必要な取り組みの検討・助言、計画の進捗管理 ・有機農業者 有機農業の生産拡大に係る取組の実施・有機農業転換希望者への指導等 ・農業協同組合 有機農産物の集出荷や有機農業等資源循環型農業の推進 ・流通業者 有機農産物の販売取扱、地域資源循環や環境保全に対する理解の向上と有機農業のPR ・富山市内の学校 学校給食へ有機農産物の導入によるSDGsや食農教育の推進 ・加工業者 有機農産物の取扱いや地域資源循環や環境保全に対する理解の向上と有機農業のPR、海外輸出の推進 ・消費者 有機えごまを原料とした市内産えごま油飲用体験による有機農産物の消費拡大 有機農産物の購入による持続可能なまちづくりに対する理解の向上、SDGsの実践
6. 資金計画
別紙のとおり
7. 本事業以外の関連事業の概要
①有機転換推進事業：新たに有機農業に取り組む農業者の初年度に必要な土づくり資材等への支援 ②有機JAS認証取得支援事業：有機JAS認証の取得に必要な経費に対する支援 ③みらい農業推進事業：有機農業に必要な農業用機械の導入支援
8. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について
※基本計画と本実施計画との関連性等必要に応じて記載すること 有機農業に先進的に取り組まれている、神通川左岸の富山市小羽（こば）地域と、対岸の岩木(いわき)地域を特定区域に設定する。
9. その他（達成状況の評価、取組の周知等）

実施体制

協議会委員

協力

富山市有機農業推進協議会

有機農業者
小羽・岩木地域
・有機栽培実践普及活動

有機農業者
その他の経営体
・イベントへの出品
・計画推進段階での参画

講師
日本えごまの会
有機農業団体
・有機えごま栽培指導
・有機農業技術指導
・有機JAS認証取得

流通関係
㈱富山中央青果
・学校給食利用促進
・有機農産物販売促進

有機栽培用機械
農機メーカー
・機械デモンストレーション

異業種
酒造メーカーなど
・有機酒米を使った日本酒など

生産者関係
あおば農協
富山市農協
なのはな農協
・栽培拡大支援
・産地づくり支援
・有機農産物販売促進

学校給食関係団体
富山市学校給食会
・学校給食利用促進

学識経験者
大学教授
・計画推進協力

アドバイザー
富山県農林振興センター
富山県農業技術課

事務局
富山市農業水産課
・事業実施運営管理
・関係機関等との調整
・検討会の開催（3回）

健康づくり
体育協会
・「富山えごま」消費推進

富山市
関係部局
教育委員会
環境部
・学校給食利用
・SDGs環境未来都市推進

6. 資金計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
区分	1. 生産段階 栽培技術研修会 有機転換支援 有機JAS認証取得勉強会 有機農業機械導入支援 サポート組織検討 2. 流通、加工、消費等 イベント出店 学校給食利用 飲用市民モニター 加工品開発検討 10,899 千円	1. 生産段階 栽培技術研修会 有機転換支援 有機JAS認証取得勉強会 有機農業機械導入支援 サポート組織検討 2. 流通、加工、消費等 イベント出店 学校給食利用 飲用市民モニター 加工品開発検討 8,000 千円※ ※ 進捗により見直す	1. 生産段階 栽培技術研修会 有機転換支援 有機JAS認証取得勉強会 有機農業機械導入支援 サポート組織検討 2. 流通、加工、消費等 イベント出店 学校給食利用 飲用市民モニター 加工品開発検討 8,000 千円※ ※ 進捗により見直す	1. 生産段階 栽培技術研修会 有機転換支援 有機JAS認証取得勉強会 有機農業機械導入支援 サポート組織検討 2. 流通、加工、消費等 イベント出店 学校給食利用 飲用市民モニター 加工品開発検討 8,000 千円※ ※ 進捗により見直す	1. 生産段階 栽培技術研修会 有機転換支援 有機JAS認証取得勉強会 有機農業機械導入支援 サポート組織設立 2. 流通、加工、消費等 イベント出店 学校給食利用 飲用市民モニター 加工品販売 8,000 千円※ ※ 進捗により見直す

資料３

令和６年度の取組みについて

１　富山市有機農業推進協議会

協議会の開催（年３回を予定）

第１回　令和６年度の取組み計画

第２回　令和６年度の取組み中間報告・令和７年度の取組みへの提言（予算化検討）

第３回　令和６年度の取組み報告・令和７年度の取組み予定（予算ベース）

２　生産拡大関係

（１）有機栽培展示ほ場の設置と栽培記録の収集（３か所を予定）

市民が自由に見学できるほ場を設置、富山市 HP 等で場所や生育状況を公開

①有機米２か所（R5 年度と同じほ場）

㈲土遊野様　　ほ場：富山市小羽 1587

㈲小原営農センター様　ほ場：富山市岩木 224

②無農薬無化学肥料栽培えごま１か所

JA あおばえごま・ごま生産部会

㈱山崎客土会様ほ場：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）有機栽培技術研修会の開催（１回）

慣行・特別栽培で農業経営を行う認定農家や認定新規就農者等を募集し、有機農業実践者を講師とした栽培技術研修会（機械実演含む）を行う。

令和５年度：６月１５日（木）１０時～　講師　㈲土遊野　河上めぐみ　様

令和６年度：＿月　　日（　）　　時～　講師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※とやま有機農業アカデミー（県）の日程に留意

（３）えごま栽培技術研修会（１回）

JA あおばえごま・ごま部会員を中心に認定農家や認定新規就農者等を募集し、えごま栽培実践農家を講師とした栽培技術研修会（機械実演含む）を行う。

令和５年度：７月１９日（水）１０時～　講師　JEA エゴママイスター　石坂直樹　様

令和６年度：＿月　　日（　）　　時～　講師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（４）有機 JAS 認証等の取得勉強会（１回）

慣行・特別栽培で農業経営を行う認定農家や認定新規就農者等を募集し、専門家を講師とした有機 JAS 認証の基礎的知見を学ぶ勉強会を行う。

令和５年度：１月２４日（水）１０時～　講師　日本オーガニックアンドナチュラルフーズ協会理事長　高橋勉様

令和６年度：＿月　　日（　）　　時～　講師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（５）有機 JAS 認証取得支援事業（予算額：２００千円）

農業者が有機 JAS 認証を取得する際の申請・審査等に要する経費に対し支援するもの。

ア．対 象 者　有機 JAS 認証取得に取り組む認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ．補 助 率　１／２

ウ．補助上限　個人５万円、組織１０万円

※４月末現在　問い合わせ１件（生産＋加工）（富山市農協管内）

（６）有機農業用機械導入支援（みらい農業推進事業補助金（市））

①有機農業チャレンジタイプ（予算額：９９９千円）

有機農業で栽培することにより労力がかかる作業（ほ場内及び畦畔の除草、堆肥散布等）の負担を軽減するための機械導入や改造等に対する支援を行うもの。

ア．対 象 者　有機農業に新たに取り組む認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ．対象品目　水稲、園芸、果樹

ウ．対象機械　除草ロボ、アイガモロボ、歩行式除草機、ペレット散布機など

エ．標準事業費　１，０００千円

オ．補 助 率　１／３以内

カ．補助上限　３３３千円

※４月末現在　問い合わせ１件（富山市農協管内）

②有機農業拡大タイプ（予算額：１，５００千円）

有機ＪＡＳ認証ほ場を拡大することにより労力がかかる作業（緑肥粉砕、堆肥散布、除草等）の負担を軽減するための機械等の導入に対する支援を行うもの。

ア．対 象 者　有機 JAS 認証取得済みもしくは認証取得移行期間にある認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ．対象品目　水稲、園芸、果樹

ウ．対象機械　①ウのほか、緑肥粉砕用フレールモア、有機資材散布用機械、乗用除草機など

エ．標準事業費　１，５００千円

オ．補 助 率　１／３以内

カ．補助上限　５００千円

※４月末現在　問い合わせ１件（富山市農協管内）

（７）有機転換推進事業（予算額：４００千円）

新たに有機農業への転換等を実施する農業者に対して、有機農業の生産を開始するにあたり、土づくりなど必要な経費について支援するもの。

ア．対 象 者　有機農業に取り組む新規就農者や農業者
イ．対象農地　慣行栽培から有機農業への転換初年度となる農地
ウ．支援単価　２万円以内/10a（定額）
※４月末現在　問い合わせ１件（富山市農協管内）
JA あおばえごま・ごま部会でも調整中

３　消費拡大関係

（１）市主催のイベントへの出品と消費者アンケート調査（２回）
１１月　３日（日）　ワンデージャックフェスタ　富山駅
１１月下旬　　里山交流フェスタ　八尾ゆめの森ゆうゆう館

（２）有機米の学校給食（１回）
１２月２日（月）～６日（金）の間
今年度は有機米のみの提供を予定
今後、日程、必要数量、給食負担額等を市教育委員会学校保健課と調整
第２回協議会で出荷者を協議・決定
・・・令和５年度は㈲土遊野産　有機コシヒカリ　約２．６ｔ

（３）富山えごま油飲用モニターアンケート（４３０人分）
令和５年度は富山市スポーツ協会主催の６０歳代が中心の１９プログラムで配布
令和６年度は同協会と対象者が異なるプログラムを協議のうえ選定し配布
・・・昨年度と同じ市民がモニターとならないよう留意

４　加工品開発関係

有機米等を用いた加工品の開発検討（随時）
令和５年度のアンケートで活用希望のあった酒造メーカー、マス寿司メーカーと個別に面談し、開発に向けた情報収集を行うとともに、必要に応じ生産者とマッチングを行い、次年度以降の新商品開発への足掛かりをつける。

５　富山市 CSA 型サポート組織の検討

別紙資料参照

６　その他

富山市役所の出前講座において、「有機農業の取組み拡大について」をメニュー化
・・・市民への PR・広報活動を拡大

有機農業取組拡大推進事業スケジュール（案）

区分	令和6年																								令和7年								
	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
1 協議会関係				◎ 第1回 5/9																	◎ 第2回												◎ 第3回			
有機農業実施計画　進捗・評価・見直の提言				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→			
2 生産拡大関係																																				
(1)実証ほ場設置　水稲2か所、えごま1か所	●	→	→	→	◎	→	随時自由見学・富山市農林水産部ツイッター等による広報活動	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→												
(2)有機栽培技術研修会	●	→	→	→	→	→	→	◎																												
(3)えごま栽培技術研修会	●	→	→	→	→	→	→	→	→	◎																										
(4)有機JAS認証等の取得勉強会																		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	◎								
(5)有機JAS認証取得支援事業	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
(6)有機農業用機械導入支援(市)	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
(7)有機転換推進事業(国)	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
3 消費拡大関係																																				
(1)市主催イベントへの出品と消費者アンケート調査															●	→	→	→	→	→	→	◎ 3日		◎												
(2)有機米の学校給食			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	◎											
(3)富山えごま油飲用モニターアンケート																		●	→	→	→	◎	モニター飲用 →		→	→	→	アンケート回収・集計 →	→	→	→				
4 加工品開発関係																																				
有機米等の加工品開発				●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
5 富山市CSA型サポート組織検討				●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
6 その他　出前講座等による広報活動	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
※有機産地づくり推進(国)関係	内示	申請指令前																																実績報告		
※有機農業実施計画実行支援業務		入札 ● →	開札 ◎																															同上		
備考																						ワンデージャックフェスタ		里山交流フェスタ	有機の日学校給食利用											

資料４

富山市 CSA 型サポート組織検討ワーキンググループの設置について

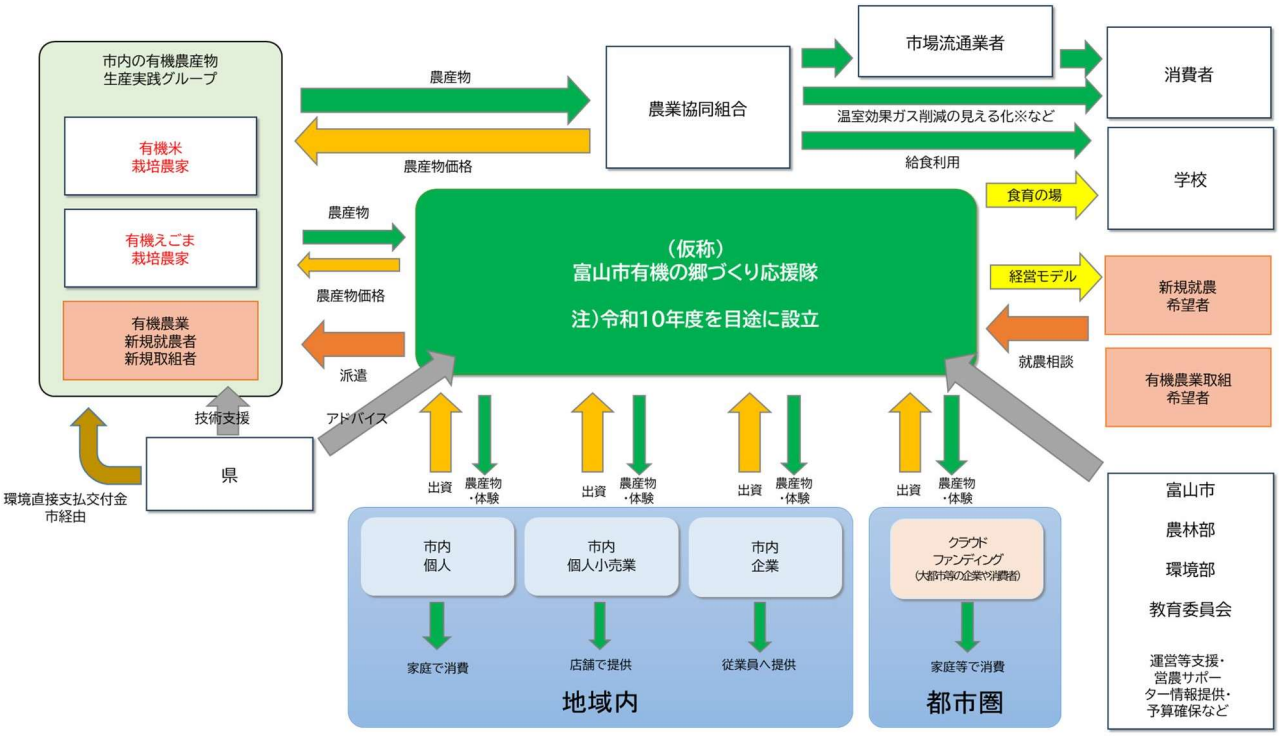
１　目的

富山市有機農業実施計画に位置付けた「富山市 CSA 型（地域支援型農業）サポート組織の検討」を行うため、組織設立に向け検討すべきテーマ毎にワーキンググループを設置するもの。

２　富山市 CSA 型サポート組織について

農業は、様々な生き物の生育・生息に重要な役割を果たしており、自然と深く関わっている。この農業を持続可能なものにするため、環境に配慮した有機農業等を推進し、人と命の繋がりを大切に、豊かな自然をより良く、農村部の地域づくりを行いながら、次の世代に引き継ぐことを理念とし、次の役割を担う。

（１）有機農業とは何か、なぜ必要かを市民に伝える
（２）消費者との連携により有機農産物の消費と生産の拡大を図る
（３）有機農業等の技術を慣行農業者等に教える
（４）有機農業等を切り口に農村地域等の活性化を図る



富山市 CSA 型サポート組織『（仮称）富山市有機の郷づくり応援隊』のイメージ

ワーキンググループは、富山市 CSA 型サポート組織『（仮称）富山市有機の郷づくり応援隊』の役割をテーマに位置づけ、年度ごとに検討する。

３　今年度の検討テーマと検討事項（案）

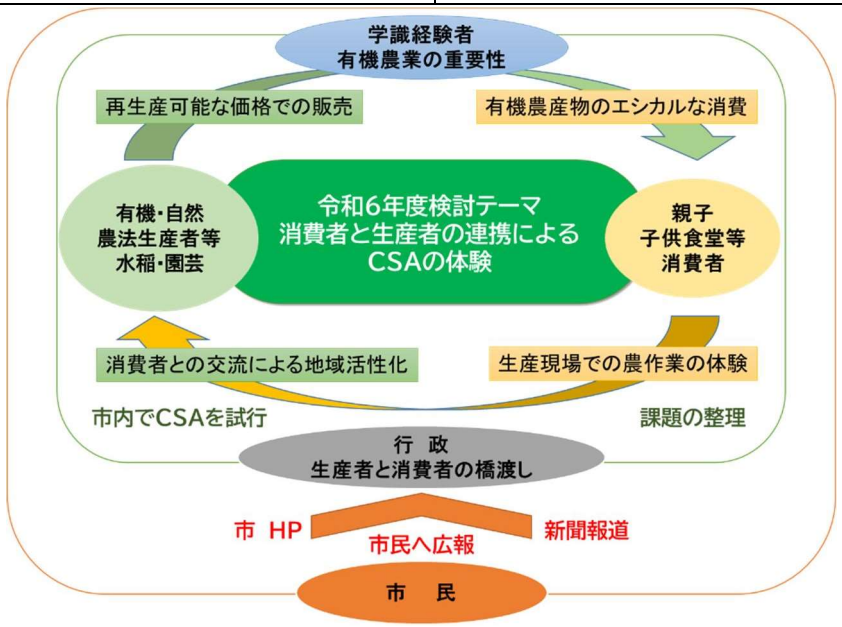
検討テーマ：消費者と生産者の連携による CSA の体験

まずは、地域内で、消費者と生産者の交流・連携を深め、CSA を試行・実体験し、サポート組織の柱となる交流の部分をスタートさせる。

検 討 事 項：（１）消費者と生産者の協議による交流と物流の仕組み
（２）取扱農産物や選択基準、価格設定
（３）有機農業等の必要性の理解促進と市民への伝え方
（４）行政（市）の関わり方
（５）CSA の試験実施と継続

◎メンバー構成（案）

メンバー	状況に応じて参加を募るメンバー
有機農業等の実践農家（主穀作・園芸） 有機農産物を積極的に購入したい消費者や団体・企業 有機農業等に取組みたい農業者や営農組合 有機農産物を提供したい飲食業 学識経験者、市（農林部門）	有機農産物の消費拡大を図りたい農協 有機農産物を販売したい小売業 交流活動を後押ししたい観光業 コンサルタント（オーガニックプロデューサー等） 市（観光・環境・教育部門）



令和６年度ワーキンググループ活動イメージ

４　今後検討するテーマの例

・慣行農業者等の有機農業等の学びの場づくり
・有機食材を用いた加工品開発と輸出
・学校給食への有機食材提供の仕組づくり
・半農半 X の有機家庭菜園、生産者との共同菜園など幅広い担い手づくり　など

５　参考資料（令和５年度第３回協議会資料からの抜粋等）

CSA（Community Supported Agriculture）

ＣＳＡ（Community Supported Agriculture、地域支援型農業）

図１　ＣＳＡのコンセプト

出典：農研機構「CSA導入の手引き」

日本で定着しない理由

1)日本の農産物取引においては前払い方式の契約がなじみにくい

2)生産者と消費者がリスクとコストを均等に負担する運営理念が一般化していない

「環境保全型農業を地域ぐるみで取組む地域住民参加型農業」